

先輩社員に聞く電気工事の魅力

積極的な姿勢で経験値を増やしていきたい

日向野佑太

株式会社新和電工
工務課

2016年3月卒業 同年4月入社

出身校 日本工業大学・工学部電気電子通信工学科



―― どのような形で就職活動を進めたのでしょうか？

日向野 学校内で開催される就職支援ガイダンスに参加して基礎的な知識を身につけ、集団面接、グループディスカッションも経験していき、学内合同企業説明会に参加し、就職支援課に置いてある求人情報なども参考にしながら、数社の電気工事会社をピックアップしました。

―― 企業を選ぶ上で基準となることはありましたか？

日向野 大学では電気に関する勉強をしていました。ですからその知識を生かせる仕事に就きたかったので、電気工事会社を中心に企業を選んでいました。ただ、どういった電気工事会社が良いという具体的にイメージはありませんでした。やはり、実際に入社してみなければ分からないことが多いんだろうなという感覚でしたね。

―― 新和電工に入社した動機を教えてください。

日向野 選んだ電気工事会社のホームページなどを見て情報収集をしました。中には企業説明会に参加した会社もあります。新和電工は企業説明会に参加した会社の一つなのですが、その際の社内の雰囲気や担当者の印象がすごく良かったです。面接に進んでからもその印象が変わることはなく、内定がもらえたら新和電工に入社しようと決めていました。

―― 現在はどのような現場を担当していますか？

日向野 工場の改修工事を担当しています。先輩について仕事を覚えている段階です。先輩からは何かあったら、どんどん聞いてくれと言っているから、分からないことがあれば聞くようにしています。分からないことをそのままにははいけません。最終的に会社を含めたさまざまな人たちに迷惑を掛けるからです。当然一回教わったことは吸収しなければなりません、分からないことが直ぐに聞かなければいけないと感じています。

―― 現場代理人の仕事の難しさについては。

日向野 施主側から仕様変更が起こる場合もあるわけですが、そのことを電工さんにどのようにして伝え理解してもらおうか、状況によっては施主やゼネコンと仕様変更について再度話し合いの場を持つなど、関係者との折衝は難しいと感じます。そのためには、数多くの現場を経験し、引き出しを増やしていかなければいけないと感じています。先輩もさまざまな折衝を行っていますが、自社の言い分を伝えつつ施主やゼネコンの気持ちを汲み取りながら交渉している姿を見ると、凄いと感じます。

―― 現場代理人として年長者の方々と、どのようにコミュニケーションを取っていますか？

日向野 私は年上の方とコミュニケーションを取ることに限っては、それほど苦労はしませんでした。性格的な部分もあるのかもしれませんが。話す内容は仕事のこともありますが、趣味やプライベート的な部分も聞くようにしています。特に昼休みなどは、電工さんも緊張感が多少はほぐれていると思いますので、コミュニケーションを取るには良いタイミングではないかと感じています。そうすることで、電工さんと親しくなることができ、何かお願いをする際においてもスムーズに受け入れてくれるケースも少なくありません。

―― どのような時に仕事のやりがいを感じますか？

日向野 まだ、ほとんどの作業工程を一人で終えた経験がないのですが、現場代理人として一つの現場を竣工できた時はそうとう感動するだろうなと感じています。現時点での経験で言えば、やはり自分が関わった建築物に電気が点灯した時ですね。

ありきたりかもしれませんが、竣工するまでの努力や苦労などが報われたと感ずることができる瞬間です。この感覚は建設業でなければ味わえないものだと思います。

